

米原警察署協議会議事録

開催日時		令和3年6月15日（火）午前10時～午後0時
開催場所		米原警察署大会議室
出席者	委員	八田能雄委員、松田美穂子委員、藤本敦子委員、川瀬秀樹委員
	警察	署長、次長、調査官、会計課長、生活安全課長、地域課長 刑事課長、交通課長、警務係長（書記）
議事概要		<p>1 米原警察署長挨拶</p> <p>第1四半期の警察署協議会を開催するにあたり、お忙しい中、ご出席いただいたことに感謝する。</p> <p>新型コロナウイルスに対しては、予断を許さない厳しい状況が続いており、慎重な行動や感染症対策も引き続き求められているので、本日の協議会においても感染防止対策として、委員や署員の間隔を広くとり、換気を行いながら開催することに理解をいただきたい。</p> <p>警察の業務については、日常的に発生する事件・事故への対応に加え、犯罪抑止や交通事故防止活動など、地域の安全・安心のための取組を推進している。</p> <p>令和2年中の県内及び米原市の刑法犯認知件数、人傷事故件数は、令和元年中と比較すると減少しており、その背景として新型コロナウイルス感染症に伴う社会生活の自粛等の影響も多分にあるはずであるが、こうした中でも、各地域による献身的な取組が、減少に大きく寄与したものである。</p> <p>引き続き、各地域の協力のもと、安全で安心して暮らすことのできるまちづくりを目指し、今年の米原警察署のスローガン「署員一丸ワンチーム」により、今年もしっかりと取組みを進めていく。</p> <p>委員には、これまで同様、警察だけの視点では捉えられない地域が抱える問題点など、その実態について忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p>2 令和3年度会長・副会長の選任について</p> <p>会長の互選について出席委員で協議した結果、山崎完一前会長が本会議を欠</p>

席していることから会長・副会長の選任は次回開催時に行うことを決定した。

### 3 委員及び警察幹部の自己紹介

### 4 議事

#### (1) 信号交差点の交通規制に対する改善策

##### 【前回開催時における委員からの提言】

市内の信号交差点の中には、右折の矢印灯火が設置されていないことで、交差点内で右折待ちの車両が滞留し、対面する信号が赤色灯火となっても、強引に右折する車両が多く、大変危険な箇所がある。

##### 【改善】

対面する信号灯火が全面赤色状態となる時間を数秒伸ばし、右折待ち滞留車両の解消を図った。

#### (2) 山岳事故の現状と防止対策

登山届等を資料として配付

### 5 質疑・意見

(委員)

伊吹山と霊仙山の登山届について、登山者からの提出はどの程度なのか。

(警察)

登山届の提出は半数程度であり、山岳事故当事者の場合、登山届が提出されていないことが多い。登山箱は、標高が高い山などの登山道入口付近に設置しているが、標高の低い山には設置していない。インターネットによる提出であれば、全ての山が対象となるので、事故防止のためにも効果的に活用してもらいたい。

(委員)

山岳事故が起きやすい時期はいつなのか。

(警察)

年間を通して発生しているが、特に多いのが春から秋の行楽シーズンである。

(委員)

一度、山岳事故が発生すると、多くの警察官が救出救助活動に従事するが、活動費としての警察予算は組まれているのか。また、山岳事故当事者が、救出救助に係る費用を負担するのか。

(警察)

山岳救出救助活動は、装備資機材を活用するため、経年劣化等により更新に係る予算を要求することもあるが、活動自体に対する予算は計上されていない。また、救出救助活動は、人命救助を目的としており、警察の責務でもあるため、山岳事故当事者が費用を負担することはない。

(委員)

登山届を提出せず山岳事故に遭う登山者は、慣れや経験などの過信から安全面での配意を怠ることが事故を招く要因かもしれない。登山届に、登山者自らが命を守る意識を抱かせる内容や提出することによって何らかの特典があるような文言を記すなど、登山届を積極的に提出させる一工夫が求められる。

(警察)

登山者への情報発信としては、インターネットによる注意喚起や登山道での啓発活動により山岳事故防止を呼びかけている。他には、警察が実施する山岳救出救助訓練などを広報するといった取組を行っている。

(委員)

県警ユーチューブで、山岳事故の原因や登山道の危険箇所を周知するなど、動画を用いた情報発信はできないのか。

(警察)

登山届と併せて検討を図る必要がある。

(委員)

旧北国街道は、通勤及び帰宅時間帯の交通量が多く、速度を上げて走行する車が散見される。付近は住宅街で保育園や通学路もあり大変危険なので、県警が管理する防犯カメラを設置して、交通事故防止の抑止を図れないか。

(警察)

防犯カメラに関しては、基本は管理者側の設置となる。県警では、防犯用とする地域見守りカメラを各自治体からの要望に応じ、台数に制限があるものの可能な限り設置の支援をしている。地域見守りカメラは安全・安心なまちづくりには多角的に活用が図れる。

(警察)

警察では、朝夕の通勤及び帰宅時間帯においても、引き続き交通立番や交通検問などの取締りを行い、交通違反車両に対しては、指導警告及び検挙といった交通事故抑止活動を実施する。

(警察)

時間帯による交通立番、交通検問、警ら活動などを通じて取締りを行い、交通違反車両に対しては、指導警告や検挙など必要な措置を行い、交通事故抑止活動に努める。

なお、各自治会に対して、交通事故防止に関する啓発チラシの回覧依頼や、県や米原市に対しては交通事故防止を促す看板設置を働きかけるなど、地域と連携を図った対策も効果がみられる。

(委員)

最近、暴走族の騒音で悩まされている。取締りを推進するにあたり、私たち市民もできることはないのか。

(警察)

暴走族は、ナンバープレートを隠蔽し、運転手は顔を隠すなどしており直ぐに検挙することは困難であるが、市民からの情報提供や事後の捜査により被疑者の検挙へと結びつくので、市民からの目撃通報等は重要である。

(委員)

地元区の道路は、朝の通勤時間帯に抜け道として利用され、速度を上げて走行する車が散見されたことで、以前、警察へ速度取締りを要望したところ、可搬式速度取締りにより、交通量や違反車両が減り非常に効果がみられた。

また、山岳事故に関しては、市内小中学校が、登山学習において利用する送迎用のバス車内にはAEDを常設している。民間の観光事業者等も、登山後に体調不良を起こす傷病人に対する適切な処置が施せるよう関係機関との連携も確立し、子どもたちの安全な登山に一役を担っている。

## 6 次回開催日

次回の協議会開催は9月頃を予定